

## 令和4年度岩手県立博物館協議会議事録

<b>日 時</b>	令和5年1月24日（火）10時～12時10分
<b>場 所</b>	岩手県立博物館 教室
<b>出席委員</b>	星俊也（会長）、阿部俊一、小野寺哲男、上柿剛、向井隆、菅野文夫、細越千絵子、黒田大介、山本玲子、石川京子、丸山ちはや 各委員（11名）
<b>県側出席者</b>	〔生涯学習文化財課〕 久慈孝総括課長、岩淵計文化財課長、千葉正彦文化財専門員、佐藤正徳主査 〔公益財団法人 岩手県文化振興事業団〕 平野信二事務局長 〔岩手県立博物館〕 高橋廣至館長、工藤善彦副館長、高木晃学芸第一課長、木戸口俊子学芸第二課長、金子昭彦学芸第三課長、栗澤孝信総務課長、田原かおり主事

<b>1 開 会</b>	
<b>司会進行 総務課長</b>	<p>協議会委員総数 15 名中、本日の出席者は現在 11 名である。半数を超えているので、岩手県立博物館管理運営規則第 9 条第 2 項の規定により本会議の成立を報告する。</p>
<b>2 館長挨拶</b>	<p>皆さん、おはようございます。本日は大変お忙しい中、寒い中、また、足下の悪い中、ご出席いただきまして誠にありがとうございます。県立博物館、館長の高橋廣至と申します。よろしくお願い致します。</p> <p>最初に、今年度初めて委員になられた方もいらっしゃいますので、例年のように開館設立について少しお話させていただきます。</p> <p>当館は、昭和 55 年 10 月 5 日、「郷土に対する知識と理解を深め、未来の岩手の可能性を認識して、教育、学術、文化の発展と、郷土を築く県民の意欲の高揚に寄与すること」と「今日の博物館は、従来の博物館が持っていた単なる収集品の保存及び展示、という考えに止まらず生涯教育の拠点として、年齢、性別、学歴を問わず誰でも、いつでも地域社会における産業、文化、生活を創造するために学習できる場を設置する」という基本構想のもとに開館しました。</p> <p>開館時から 42 年間、総合博物館として原始から現代に至る岩手の歴史の流れと時代の特色が展観できるよう、常に創意工夫を凝らして今日に至っております。</p> <p>さて、私からは館の現況について総括的なお話をさせていただき、詳細につきましては、この後に担当者から説明いたします。</p> <p>最初にコロナ感染ですが、今年度の前半はコロナも小康状態が続いていましたので、展示会やイベント等に、お子様から高齢者の方まで徐々に参加する方が増えて来ておりましたが、第八波の影響で、最近急ブレーキがかかっております。まだまだこのような状況は続くものと思われませんが、今後とも来館される皆様の健康を第一に考えながら、博物館での一時を楽しんでもらいたいものと思っております。</p> <p>次に、今年度の展示会や事業等についてですが、概ね予定通り実施することができました。近年大変厳しい予算の中、展示はもちろんのこと、収蔵庫にある資料等を活用しての「トピック展」や自主事業等を実施して参りました。手前味噌ではありますが、職員はコロナ禍の中、予算軽減の中、労力を惜しまず様々な工夫して来館者を楽</p>

しませることに努めております。

また、事業の一つとして、今年度、県博のこれまでの経験を生かし、三陸の豊かな地形、地質遺産を守りながら教育や地域振興に寄与すべく「三陸ジオパーク振興協議会」と協定を結びました。これは、昨年度、当館の開館40周年記念特別展で「三陸再発見」をテーマに三陸地方のまだ広く知られていない部分に光を当て、三陸とはどのような地域であるのかを、自然史・文化史の観点から多角的に紹介致しましたが、ジオパーク推進協議会からは、当館と一緒に更に広く、深く研究したい、とのご依頼でありました。当館でもこの協定で得た成果を、是非、今後の展示や事業に生かしたいと考えております。

次に、博物館と学校の連携、いわゆる「博学連携」についてお話しします。これまで当館は毎年、各学校を訪問しての「出前授業」の他、多くの学校と多岐に渡り連携を深めて来ましたが、特にも昨年、盛岡青松支援学校のご依頼により授業連携を始めました。まだまだ完全ではありませんが、特別支援学校の授業に博物館としてどのような役割ができるのか、その試金石になりたいと考えています。全国では、教員と学芸員が共同で授業を作り上げる、という連携が広がっています。今後、小中高の授業でも普及させたいものと考えています。

次に、昨年もお話ししました当館の被災文化財修復事業ですが、今年度で11年目を迎えました。昨年11月に念願の陸前高田市立博物館も完成し、これまで修復した多くの資料を展示することができました。先週は「漁撈具」が国の重要文化財に指定されるとの報道もありましたが、関係者はもちろんのこと、多くの県民の皆さんに喜んでいただいているものと思います。そして、最後の1点を修復するまで陸前高田市立博物館、日本博物館協会と協力し、作業を継続したいと考えております。

また、今年度、当館では文化庁の助成金によって、東北大学防災研究所と協力して東北6県の文化財マップを作成し、何処にどのような文化財があり、どのようにすれば文化財を災害から守れるのかを研究しています。今週の木曜日に開催される「文化財等取扱講習会」においても、県内市町村の各関係機関の皆さんに講習していただき、月日とともに薄れがちな防災・減災意識を高める契機にしたいと考えています。

次に、当館の環境状況等についてお話しします。開館から40年以上が経ち、館内外の至る所で老朽化が進んでいますが、昨年、国宝・重文を展示できる公開承認館として文化庁の認可を得、何とか今後も継続することが出来ました。また、老朽化ということでお話ししますと、県教育委員会のご配慮もあり、今年度、階段と屋上の全面的な改修工事をしていただきました。近年、アンケート等で階段の改修を望む多くの県民の方がおられましたので、今年からは気持ち良く階段を利用していただけると思っています。

次に、本日の協議会につきましてお話しします。昨年度も委員の皆様からは、当館に対しまして多くのご意見をいただきました。その後、アンケートを取るなど様々な機会を捉えて改善に努力して参りましたが、今後もご意見をいただきながら、継続して改善していきたいと考えておりますので、今年度も忌憚のないご意見をよろしくお願ひします。

最後になりますが、今後とも岩手県立博物館に対しまして、皆様の一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。私の挨拶といたします。本日は、どうぞよろしくお願ひいたします。

3 委員紹介	出席委員紹介
4 職員紹介	出席職員紹介
【会長あいさつ】	<p>会長を仰せつかっております八幡平市教育委員会教育長の星と申します。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>先ほどの高橋館長さんから取組について、御説明をしていただきましたが、我々は委員として、それを支えていく使命があると認識しております。それぞれのお立場からご忌憚のない意見をいただくことが、その任に応えることだと思いますので、積極的な発言をお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。</p>
5 議 事	管理運営規則第8条第2項の規定により、会議の議長を会長が務めた。
(1) 報告事項 ア	次第5(1)報告事項ア「令和3年度岩手県立博物館協議会の意見等への対応状況について」総務課長から資料により説明した。
【質疑応答】	
【星会長】	2頁に記載の館内のバーチャルツアーの導入について令和5年度の実現に向けて取り組むとの説明がありましたが、実現すると具体的にどのようなことができるのかお知らせ願います。
【学芸第一課長】	現在、ホームページに館内の案内を静止画で掲載しています。皆さんご存じだと思いますがグーグルのストリートビューのイメージで館内を進みながら立体的に館内の様子が分かるようなもの、また定点でぐるっと360度が見渡せるよう、ホームページ上でクリックしながら、見学できるような仕組みの実現に向けて検討を進めているところです。全国的にも先進的な博物館では導入しているようですので、当館でも実現できるよう取り組んでいきたいと思っております。
【山本委員】	説明のあった解説員の制服の件ですが、昨年の会議での発言では、制服だけでなく、靴を心配されたと認識しています。ヒールのある靴を履いている方もいると思います。何かあった時、特に雪が積もった時など、避難誘導が大変ではないかと思うので、スニーカーのようなものを用意しておいた方がいいのではないかと思いますがいかがでしょうか。
【館長】	<p>この件に関する意見をいただいた後、私も直接、解説員から話を聞きました。「動きやすいですか。」と聞くと、「大丈夫です。」という回答が。「じゃあ走れますか。」と言ったら、「走ってみます。」と走っていただきました。靴はハイヒールを履いている人はいないが、「ヒールのない靴、スニーカーでもいいよ。」という話をしました。</p> <p>また、高齢者等がウォーキングで履く靴も、色が黒っぽければいいと言っています。ただ、災害等何か起きた時に、基本的に解説員が誘導しなければならないということ踏まえ、館として、地震等が起きた時に、全職員が速やかに対処し、避難誘導に当たれるように、マニュアルの見直し作業も進めてきた。御意見をきっかけに、</p>

様々な検討を進めているところであり、貴重な御意見をいただいたと思っています。

それから、制服について、日本博物館協会にも聞きました。資料にも記載のとおり、いろいろな考え方があり、ジャンパー着用のところもあります。公的なところは、もう少しきちんとした制服を着用した方がいいという意見もあるようです。予算のからみもありますが、時代に合わせて考えていかなければならないと。今のところ、解説員の話し合い等を踏まえて進めています、変えるべきところがあれば徐々にでも変えていきたいと考えています。

〔細越委員〕

制服等について御検討いただき、ありがとうございました。私がお話ししたのは、やはり、避難誘導等で館内はいいが、外を走れるかということがポイントだったので、そこを御理解いただきありがとうございます。

また、前回、ツイッターに関して意見も述べました。それに関してよく工夫をされていると感じています。先ほどもツイッターを確認しましたが、トピック展などについても発信されていて、良かったなあと思います。先ほど、館内の展示、企画展を拝見しましたが、盛岡市の廃業した銭湯「菊の湯」さんで使われていた装備品の展示がありました。ごく身近に感じる事ができたが、そのようなこともアピールすると、今まで来なかった人が博物館に足を運んでくれるようになるのかな、おもしろいなと思いました。あと、何年か前に展示があった昔のマッチ、郷愁をそそるといふか、そのような部分もツイッターでどんどん発信すると新規開拓につながるのではないかなと思うので、これからもツイッターの活用について、よろしくお願いします。

〔丸山委員〕

1 頁に私の意見を取り上げていただきありがとうございます。移動展は美術専用車を借りるなどの対応が必要とのこと、私も学芸員をしていたので分かるのですが、100 万円単位ですよね。それで、おもしろいアイデアが大阪の吹田市にある国立民族学博物館にありまして、テーマによって、パッケージを決めて学校に貸し出すんですよ。そこに、その地域の持っている特徴のあるもの、複製とかコピーなどの資料を入れて教材、グッズを博物館が一定期間貸し出すというやり方です。小学校、中学校の学習時間にその時代のものを貸し出すということをやっていけば面白いと思います。地域での学習、小さい範囲、低予算でできると思います。学校等の教育現場では、時間をとって博物館に連れて行くというのが、大変なところもあるので、その時代の資料等で見たものと似たような物が複製でも現物があるということ、今日の協議会に、学校の先生もいらしているので、そのようなアイデアなどを活用できるようにすれば、低予算で事業を実施できるのではないかなと思います。

岩手県立児童館・いわて子どもの森では、来ていただくことは親も大変なので、何をやったかという、おもちゃのパッケージ貸出しをやりました。良質なグッドトイなんです、それを保育園、児童館とか小学校に貸し出していたので、そのような仕組みもいいなと思いました。

もう一点ですが、2 頁目で、先ほどお話しいただいたバーチャルツアーの件ですが、私も、館内の展示を少し拝見させていただきましたが、地元の方たちが郷愁を誘うような展示もあって、非常に面白かった。今、海外からのお客さんが、結構な数、日本に来ていて、博物館に興味があって必ず御覧になるのですが、その前にホームページを確認される方が多いと思います。その地域の特徴のあるもの、おもしろい物が

	<p>ヒットして、来館者数が増えるという現象が今までも起こっているんですね。なので、地域の方プラス、観光客、インバウンドの方々に向けてのちょっとした表示とかアプローチがあると、ツイッターとかホームページの効果上がるのではないかと思います。</p>
<p>〔議長〕</p>	<p>海外、インバウンドのお客様に対する外国語表示についてはどのような取組になっているか紹介していただけますか。</p>
<p>〔総務課長〕</p>	<p>ホームページ上では、英語のほか、中国語、簡体字、繁体字などの表記を見れるようにしていますが、外国からいらした方に対応できるよう、工夫を凝らしていかなければならないと考えています。</p>
<p>〔菅野委員〕</p>	<p>今、ホームページを確認したところ、英語、中国語（簡体字、繁体字）、韓国語で表記されているが、ただ、トップページのメニューはいいが、中に入っていくと工事中となっている場合が多いです。</p>
<p>〔丸山委員〕</p>	<p>私も確認しましたが、そんなに充実しているという感じにはなっていないと思います。例えば、先ほど話題になった、お風呂の話、とてもおもしろい話題だと思うが、それを見に来たいと思わせるような記載がないので、ピンポイント、トピックでいいので、岩手らしいとか日本らしいよねという内容があれば、食いつきがよくなると思われま。今の子どもたちはだいたい銭湯を知りませんから、それだけでも興味関心を持っていただけると思います。</p>
<p>〔議長〕</p>	<p>関連してお話しさせていただくと、皆さんご存じだと思いますが、ハロウィンターナショナルスクールができたのですが、実は校外との交流が私の地元八幡平市で始まっています。日本文化に対する興味・関心が高いんです。そこで学ぶ子供たちは、数年後には中・高で900名ぐらいの生徒数になりますので、この生徒たちを狙わない手はないと思っています。そして、彼らが日本文化を理解する上で、特にも岩手の成り立ちや様々な文化を理解するためにはこの博物館がまさにぴったりの場所だなというふうに思っています。もちろん、地元の博物館も紹介しますけれども、県内全体について、県立博物館より充実しているところはないわけですから、是非、丸山委員からお話があったように、ホームページの充実、さらにはインバウンド向けのパンフレットであるとか入口に配架されていた刊行物などについて、英語版、外国語版などについて、どのような方針があるのか、次年度以降のことに関わってくると思いますが、何かお考えがあればお知らせ願います。</p>
<p>〔総務課長〕</p>	<p>おっしゃるとおりで検討していかなければならないと考えています。今お話がありました、ハロウィンターナショナルスクールについては、副校長先生から生徒を連れてくる前に、自分が勉強したいので、来館する日の日程調整をさせていただきたいという連絡をいただいております。いずれ、博物館に来ていただくことが実現するものと考えています。</p> <p>それから、ホームページやパンフレット等について、外国からいらっしゃる方向</p>

	<p>けの対応をしっかりとしなければならないと考えております。来館者に対し、英語で対応できる職員もいますが、資料として作成する場合は、やはり専門家の方をお願いして作成しなければならず、その予算の確保が大きな課題であると考えていますが、方向性としては、御意見いただいたとおりしっかりと対応していかなければならないと考えています。</p> <p>〔丸山委員〕 今、グーグル翻訳がすごく精度が高くなっているので、キャッチコピーみたいな短いものだけでいいんですよ。あとは、日本語で書いてあってもグーグル翻訳のできるので、専門家に頼んで、大変な予算かけて英文にすることまでしなくても、低予算で対応できる方法はいろいろあると思います。ハロウィンターナショナルスクールの人数、内訳はどうなっているのでしょうか。</p> <p>〔議長〕 今、世界 13 か国から集まっているが、人数的には 180 人の生徒のうち、日本人が約 70 名、中国系が 60 名ぐらい、そのほかあとは英語圏からということになります。ただ、授業そのものは、すべて英語で行われており、どの生徒も英語で話せる環境です。</p> <p>〔丸山委員〕 そのような環境であれば、ここでワークショップをやるとか、その子たちの英語力を使って、岩手県へのアプローチができるのではないかと思います。</p> <p>〔細越委員〕 ワークショップもいいと思いますが、盛岡市内に限られてしまうかもしれませんが、市内の高校生と一緒に国際協力活動的に、手作りマップの作製などを行えば、お互いの活性化につながっていくのではないかと思います。</p> <p>〔館長〕 文化庁の会議に行くと、今は外国の方の誘客、はっきり言えば外貨を稼ぎたいということをよく言われます。この県立博物館に来るとなると、アクセスそのものも大変で、非常に難しい部分もありますが、是非来ていただきたいと思っています。そういう意味で当館でも、もう少し足を運んでもらえるような努力をしなければならないと思いますが、他の御所野遺跡とか、平泉文化遺産の方はいいと考えている方が多いので、今までも、さらに踏み込んだ対応のノウハウがないというのがありますが、その部分が遅れているのかなと思いますので、今、皆さんからお話いただいたことを参考にしていかなければならないと考えています。今後も様々な御意見をいただければと思います。</p> <p>〔議長〕 先ほどお話しいただきましたとおり、すでに向こうから問い合わせがあったということで、博物館に来たいと、すでに動き出しているということを大変嬉しく思います。ハロウィンターナショナルスクールの中にも日本との交流担当者がいますので、その方が窓口になって、八幡平市内の学校との交流について、調整しながら進める体制ができていますし、ハロウィンターナショナルスクール自体、日本文化を学びたいという姿勢でいますので、このチャンスを逃さないよう前向きに御検討いただければと思います。</p>
--	--

<p>(1) 報告事項 イ</p> <p>【質疑応答】</p> <p>〔黒田委員〕</p> <p>〔館長〕</p> <p>〔丸山委員〕</p> <p>〔副館長〕</p>	<p>次第5(1)報告事項イ「令和4年度岩手県立博物館事業実施状況について」副館長から資料により説明した。</p> <p>文化財レスキューの関係で、先ほどの館長さんのごあいさつで、最後の1点までという力強いお話を聞き、嬉しく思っているところですが、修復作業の進捗状況、また、修復が難しい資料が残っているとも聞いているので、おそらく相当の時間を要すると思われませんが、財政的な面でどうなのかお知らせいただきたいと思います。</p> <p>対象資料が46万点あったのですが、現在、10万点余残っていると思います。ただ、その10万点は、処理が難しい、厳しい物を残して、やれるものからやってきたということもあります。修復作業は、陸前高田市と当館で分担してやっていますが、今までのような形で順調に修復ができるかという非常に難しいかもしれません。ただ、東京国立博物館とか、東京芸術大学、昭和女子大学、女子美術大学とかに分散して協力いただき、今集まってきているわけです。</p> <p>これまで10年間やって、復興庁、文化庁の方では、10年経ったからいいよねという雰囲気でしたが、様々な方面からお願いし、5年間ほど延びそうで、それが令和7年度ごろまでの見通しとなっています。ただ、予算の話なので、今年で終わるかもしれないし、来年で終了となるのか、ちょっとわからない状況です。教育長にも東京に行った際には文化庁に足を運んでいただいています。去年から文化庁の予算書に令和7年度までと書いてありますので、7年度までは予算措置していただけるのかと思っています。ただ、7年度までで、最後の1点は終わらないと私は思います。なので、今後、いろんな方が文化庁や復興庁に足を運んで何とかお願いするというようなことをしていかなければならないと思います。ちょっと今後どうなるか予想がつかないんですけど、できれば最後の1点までできるように頑張っていきたいと思います。</p> <p>また、先日新聞にも取り上げていただきましたが、陸前高田市の漁撈用具が国の重要文化財に答申されました。岩手日報には1面に掲載していただくようお願いしておりましたが1面には載りませんでした。今回は答申しただけですので、指定されれば1面に載ると思います。</p> <p>いずれ、このようなことで、県民の皆さんの意識も高まっていくと思いますので、委員の皆さんからも応援をお願いしていただければと思います。</p> <p>6頁の教育普及事業の(5)の県博出前講座なんですけど、どこで、いつ、何をされたのかということをお知らせ願います。</p> <p>今年度の4月から11月末までで12団体ぐらいで実施してるんですけど、例えば平舘高校さん、あるいは八幡平市市立柏台小学校さん、盛岡市立仙北小学校、中学校さんなどで実施しております。内容としては、植物の観察あるいは化石の関係のほか、カワシンジュガイ等の調査指導などを実施しています。そのほか講師派遣という形の出前授業を実施しておりますし、市町村の教育委員会の事業の講師等も行なっております。</p>
--	---

<p>【議長】</p>	<p>様々取り組んでいただいているようですので、もう少し資料に記載いただければわかりやすくなると思いますので、よろしく願いいたします。</p>
<p>【館長】</p>	<p>出前講座については、あいさつの中で少しお話ししましたが、日本博物館協会で、出前講座については、学校を訪問し、その時間を博物館の学芸員がお話しするというだけでは駄目ですよって言うように言われています。なぜかという、単にその教員を楽にしてあげるそういう時間ではありませんよって言うのがあって、学校に行って、この授業どうするか、教科書では、こういうふうに教えたけど、じゃあ県内には同じような遺跡があるのか、ないのか、資料があればそれを持って来て欲しいとか、こういう質問が出たら、こう答えましょうなど、打合せをしながら進めてほしいというのが、本来の目的だと思っています。それであれば、時間がかかるので、先生からすると来てもらわなくていいという方も結構いるみたいですけど。全国的にはそのようにしっかりやっているところもあるので、すごいなあと思います。意思疎通をしながらやらなければならないですが、私もそのように進めたいと思っています。</p> <p>平館高校の場合、衣装をつくってもらっていますが、ただつくってもらっただけではなく、この衣装は岩手県で、どういう時に着るのか、使うのかというようなことをディスカッションしたりしながら進めています。</p> <p>また、星会長さんともお話ししたのですが、防災について、岩手山が噴火、爆発したらどうなるかということ、平館高校を含めた小・中・高で、どう対応しなければならないか子どもたちが考えるということも進めたいと思っています。</p> <p>盛岡青松支援学校の生徒さんたちには、岩手県にはこういう石がありますよ、と持って行ったりすると、生徒の目の輝きとか質問とか、これは素晴らしいと思って、ほかの学校ともそういう形で連携しながら進めていければいいと思っていますが、お互いかなりの労力があるので、このやり方を強制するわけにもいかないというのが現状です。日本博物館協会の研究発表会などでは、本当にすごいなあという取組があるので、少しは真似して、一方的な講演で終わらせないよう、お互いがウィンウィンの形でやっていけるようにしたいと考えています。</p>
<p>【丸山委員】</p>	<p>今日、学校の先生も出席いただいています、高等学校で、サイエンスの研究指定校になっている学校がありますよね。そういう学校だと多分、組みやすい、連携しやすいのかなと思います。</p>
<p>【議長】</p>	<p>出前講座が12回の実績があるということは、やり取りをしながら、充実した授業になっていると思うのですが、阿部委員、学校現場ではいかがでしょうか。</p>
<p>【阿部委員】</p>	<p>そのような取組ができればいいと思うのですが、時間をどう確保するかという問題もありますし、先生方もどういうことができるのかというイメージを持っていないのかなと思います。</p> <p>私も出前講座等の取組は、洋野町の学校でも海洋教育等の学習をからめてやったことはあるのですが、先ほどの話を聞くと、理想的な連携はよくわかるのですが、まずは博物館に足を運ぶ、先ほど話題になっていましたが、バーチャル博物館等で博物館を理解しながら、次はこのようなことをやってみようなど、できることから始めてい</p>



<p>【館長】</p> <p>【上柿委員】</p> <p>【館長】</p> <p>【上柿委員】</p>	<p>ければいいと思いました。</p> <p>今、私が理想を話したんですが、出前講座に行つて様々な資料を見せると、博物館に行つてみたいという子どもたちも多くいるので、それはそれで非常にいいことだと思います。校長会の席上で私もお願いするのですが、まず、出前講座を呼んでいただき、それで子どもたちが博物館に来てくれる契機になってくれればいいと思っています。体験コーナーには、刀のほか渡辺謙がまとつた甲冑もあり、甲冑を着て、刀を持つてすごいよね～と喜んでいただいています。高校生はクラブ活動等で忙しいので難しいのですが、中には学芸員になりたいという子もいるので、子どもたちに是非来ていただき、新たな発見をしてもらいたいと思っています。</p> <p>当館では館園実習とつて、将来、学芸員になりたいという大学生を対象に実習生を受け入れています。市内の高校の女子生徒がやはり学芸員志望で、実習の様子をみせてほしいという要望があり、高校生にも参加していただいたこともあります。その生徒は、私立大学の推薦入試で、その時の経験を論文にまとめて出したら、合格したということで、親御さんに喜んでいただきました。そのような事例を交え、校長会にもお願いしております。これまでも当館に来て博物館に興味を持ち、関係する職業に就いた方もけっこういると聞いています。総合博物館のいいところは、子どもたちが何に興味があるか、多様な興味に応えることができるところだと思っています。</p> <p>高校生になると、なかなか博物館に足を運ぶのは難しくなると思います。授業では展示品、収蔵品のアーカイブのデータを見せたりはしているようですが、それを見て博物館に行つてみようというよりは、ネットでも見られるんだという感じです。高校生に博物館に足を運ばせるためには、ボランティアスタッフをさせてもらうのもいいのではないかと思います。実際に運営に関わるとつ形で博物館に来てもらう方法もあると思います。このような仕事に興味を持っている高校生はたくさんいると思います。</p> <p>授業単位、学校単位で一斉になると、なかなか難しいと思います。前の学校で利用させていただきましたが、クラス単位ではなく、部活動単位で、自然科学部などが川の生物の観察会を実施した際、講師の派遣をお願いしたことがあります。自然科学部的な部活動は県内に結構ありますが、物理とか化学ではちょっと難しいので、生物とか地学分野であればいろいろと活用できるのではと思っています。今は自然科学発表会が教育センターなどで開催されていますが、博物館を会場にして開催するのも一つの方法ではと思います。</p> <p>校長、副校長先生をはじめ、生物関係や歴史関係の先生が、ここで会議をしてその後で館内の展示を見てもらうというようなやり方をしています。単に会場を貸すだけではなく、生徒を含め博物館利用につながるような借用をお願いしていきたいと思っています。</p> <p>部活動の地域移行等の話もあるので、博物館を貸していただいたり、指導をしていただければありがたいと思います。</p>
---	---

<p>〔議長〕</p>	<p>小学校、高等学校の話をしていただきましたが、中学校はいかがでしょうか。</p>
<p>〔小野寺委員〕</p>	<p>今の話の流れの中ですが、部活動の地域移行の関連で、文化部というものが、何かしらどの学校にもあるので、そこにアプローチしていくのも一つの手だと思います。授業でという話になると、総合的な学習の時間の中で求められているものは、博物館での学びは大変近いことではないかと思います。</p> <p>高等学校では、総合的探究の時間というのが教育課程の中でなっているが、そこにもつながっていくのかなと考えます。本校でいうと、「誇り」というキーワードで、盛岡の誇り、岩手の誇り、日本の誇りということで3年間系統立てて学んでいくのですが、この博物館に岩手の誇りはなんだということを、歴史や民俗等の資料が様々あるので、学ぶことができるんだらうなと思います。ここに来て、初めて知ることが多いわけで、いろいろなリーフレットなどが出ていますが、例えば、出前講座について、準備が大変だと思いますが、こんなことができますよ、こんなパッケージがありますよと、その価値が伝われば、授業、見学の時間に入れ込もうかな、併せてキャリア教育の視点で学芸員、博物館その他関連する仕事について、興味を持ってもらう視点もあるのかなと思います。つい先週ですが、キャリア教育講座をやって、市内の14箇所の事業所から来ていただいて、体育館で一斉にブースをつくってやりました。子どもたちは2箇所のブースしか聞けないのですが、2年生150人が仕事について学びました。その中に入り込むことができれば、子どもたちにもいろんな発想が出てきて、博物館に行ってみよう、博物館のことをもっと勉強してみようということにつながっていくのかなと、可能性を感じました。</p>
<p>〔館長〕</p>	<p>非常に素晴らしいことだと思います。キャリア教育にも対応できますので、宣伝していただき、来ていただければと思います。</p>
<p>(2) 協議事項 ア</p> <p>【質疑応答】</p> <p>〔菅野委員〕</p>	<p>次第5(2)報告事項ア「岩手県立博物館中期計画について」総務課長から資料により説明した。</p> <p>立派な内容だと思いますが、一番重要なのが骨子(案)の3の岩手県立博物館の活動方針、これから、こういうことをやっていくんだぞということを列挙している部分だと思います。この中で朱書きしている部分は新しく追加した項目だと思いますが、シの社会的責任と地域社会への貢献のうち、一つが博物館実習施設としての学生の受入れで、岩手大学の学生が延々とお世話になっておりまして、今後ともよろしく願いたいと思います。この部分は、これまでやってきたことと何が違うのか。同じように、2つ目の文化財等取扱講習会についてもこれまでも実施しているが、今後も継続してやっていくという意味なのか、それともちょっと違う形でやるのか、継続なのか、プラスアルファなのかお知らせ願います。資料の7頁の今年度の実施状況の中に、実習生6人という実績が記載されているが、新しい中期計画での位置づけがよくわからないので説明願います。</p> <p>〔総務課長〕</p> <p>お話しいただいた社会的責任と地域社会への貢献の事業については、基本的に継続</p>

<p>〔菅野委員〕</p> <p>〔総務課長〕</p> <p>(2) 協議事項 イ</p> <p>【質疑応答】</p> <p>〔菅野委員〕</p>	<p>事業となります。逐次事業を見直しながら工夫をして実施していますが、これまでやっていた事業を改めて整理し、追加で記載するものです。</p> <p>私の見落としかもしれませんが、この活動方針の中で調査研究に関わる部分はどのように整理されているのでしょうか。骨子（案）の1には目指す姿として、(1)自然史・文化史の拠点の役割、そして(2)博物館資料の収集及び被災文化財の修復保存と継承と分かりやすく整理されています。調査研究について、活動方針の中にどう盛り込まれているのかお知らせ願います。</p> <p>活動方針のイとして、これまでも取り組んでいる内容となりますが、充実した調査研究活動の推進と調査結果の県民への還元という項目で整理されていますので、継続して力を入れていきたいと思えます。</p> <p>次第5(2)協議事項イ「令和5年度岩手県立博物館事業計画（案）について」副館長から資料により説明した。</p> <p>調査研究活動について発言するために、私がこの場にいるのだと思っています。12頁の調査研究活動について、調査研究テーマについては、人事異動があるところなので、現時点では書けない、選定中ということは伺いましたが、ただ、決まった段階でどのような手段で明らかにする、公表していくのか、いつも報告でしか分からないし、知らされているのが、我々など狭い範囲になっているのではないかと思います。</p> <p>また、出前講座などをお願いする場合でも、博物館の方から何を教えていただけるのか、優れた学芸員が集まっているのにうまくPRできていない。例えば、大学では研究者要覧などがあって、どんな研究を行っているのか、専門は何なのか、市民講座等に対応できるテーマをお願いできるのかなどが分かりにくいのでは。学芸員の方の研究を社会に還元できる体制をわかりやすく示す方がいいと思えます。これについては、館内で議論していただければと思います。</p> <p>あともう一つ、これは毎回発言しているのですが、きっと無理なことを言っているのだろうと思ひながら申し上げます。12頁の下段に記載の学会・研究会・他機関での発表、また、研究助成申請についても是非、力をいれて欲しいと思えます。これについて、博物館として、学芸員の皆さんに補助的なことや業務の軽減のほか、学会出張の旅費の予算措置などはどうなっているのでしょうか。館の活動事業として書かれている以上、それを支える仕組み、物的な補償なりが必要になってくるだろうと思えます。財政的にどこでも大変なのは分かりますが。</p> <p>次に13頁の資料収集保管事業についてですが、博物館でデジタルアーカイブをリリースすると確か伺ったように思うのですが、この事業ではないところに記載されているのでしょうか。マイクロリーダープリンタの保守点検は書かれていて、昔、あれで目を悪くした思い出があります。現在は、資料をデジタル化してパソコン見るといのが主流になっています。博物館のデジタルアーカイブを拝見しましたが、なかなか立派な資料を掲載していますが、収蔵品のすべてではないですね。2万数千点</p>
---	---

	<p>の収蔵品のある、昔の京都府立総合資料館、今は施設の名前が変わっていますが、多数の資料を公開しています。収蔵資料のデジタル化については、先ほどから話題になっている、バーチャルミュージアム等の構想にしても、その基になるものなんだと思います。将来的には2次元の写真では済まない、本当は3次元のものがいいと思いますが、それを進めるための予算はどうなっているのでしょうか。しかも、マイクロリーダーに使うミニコピーフィルムの劣化が昔から問題になっていて、全国の歴史資料館等では、このフィルムのデジタル化が進められています。そのあたりは計画の中に出てきていないのかなと思います。</p>
<p>〔副館長〕</p>	<p>いろいろとお話しいただきましたが、どうしても予算的な制約がありまして、各学芸員の研究に充てる費用も限られた金額となっています。やりたいことはたくさんあるのですが、十分な予算が確保できていないというのが現状です。</p>
<p>〔菅野委員〕</p>	<p>分かりました。東京国立博物館でさえ、電気代に困るような国ですから。ただ、出来るところから、また学芸員の皆さんの研究意欲を支えるような雰囲気だけでも維持していただきたいと思います。</p>
<p>〔議長〕</p>	<p>今、御提案のあった、学芸員の方々にどんな相談ができるのか、どんなことが提供できるのかについて、すでに仕組みはあるものですか。</p>
<p>〔学芸第一課長〕</p>	<p>ホームページに各学芸員の自己紹介欄を設け、掲載しています。内容は各自記載しているものですが、菅野委員から御指摘いただきましたように、専門分野や例えばこのような調査研究に取り組んでいます、業績がありますなど、その辺の情報を分かりやすくお伝えできるよう、検討して取り組みたいと思います。</p>
<p>〔菅野委員〕</p>	<p>私も業績を上げろ、業績を上げろとよく言われましたけど、それは好きではないので。ただ、出前講座等を利用していただくためには、私の得意分野はこれですよという部分については、必ず書いておいた方がいいと思います。博物館自体の宣伝にもなると思います。</p>
<p>〔学芸第一課長〕</p>	<p>出前講座のメニューについては、ホームページで、このような内容のお話しができるということがたどれる、一覧で確認できるようにしていますが、もう少し分かりやすく紹介できるように工夫していきたいと思います。付け加えますと、教材の貸出しについても、ホームページ上から見れるようになっていきますし、夏休みなどに学校の先生をお招きして、資料を教材としてこういった授業ができますよといったセミナーも随時開催しております。皆様からいただいた御意見等を参考にしながら、もう少し充実した内容となるよう工夫していきたいと思います。</p>
<p>〔館長〕</p>	<p>今まで7年館長を務めてきました。今まで話したことはないのですが、なぜかという、県教育委員会の皆さんがいるので非常に言いにくい部分もあります。ただ、生涯学習文化財課の課長さん方は、これまで我々の予算を確保するために、一生懸命努力していただいています。</p>

しかし、先ほどお話ししたとおり、毎年約 100 万円、10 年で 1,000 万円ほどの予算が削減されてきています。博物館だけではなく、他の機関もそうです。その中で、一生懸命やっているのですが、今年度、テレビのCM放送もなくなりました。ラジオの枠も持っていたのですが、ラジオ放送もなくなりました。そういうこともあって、チラシ等を増す刷りして小学校に配ったりもしています。アナログ的な方法の方が、効果が上がる場合もあると思っています。

学芸員の研究予算も本当にわずかなものです。なので、私が聞くと、自前で書籍や必要な物を買っているということで、非常に心苦しく思っていますが、やむを得ないところです。皆さんに努力していただいているのですが、こういう状況だということをご理解していただきたいと思います。中には公的な博物館だから予算が潤沢で、好きなぐらいお金を使えるのに、来館者が少ないという人もいます。学芸員の中には、財団等の助成金を申請して 50 万をもらいながら自分の研究に取り組んでいる人もいます。これまで大学等からの依頼もただで受けてきましたが、これからは、有償として文化振興事業団の収入とし、それを財源として、必要な研究に充てるというようなことを考えています。研究費については学芸員に皆さんに本当に申し訳ないという気持ちです。

先ほど言い忘れましたが、例えば、菅野委員からお話もありましたが、学芸員を目指す館園実習、それから、市町村の文化財担当を対象とした文化財取扱等講習会、これは今月開催予定ですが、この 2 つの事業は予算がない事業です。予算がないのでやめることも可能です。ただ、これをやめたらどこがこの事業をやるのか、やめる訳にはいかないのです。文化財の梱包や保存・修理を教えることができるのは博物館しかない。刀の取扱いについても教えることができるのはうちしかないのです。予算がないからやめるということになれば大変なことになってしまうので、中核館としての役目を果たしていかなければならない、ギリギリのところで行っているところです。その中で職員が一生懸命頑張っているということをお話させていただきました。

〔菅野委員〕

思えば私が岩手大学に赴任した 2 年目ぐらいに、講習会でしゃべらされたのを思い出しました。懐かしいです。是非続けてほしいと思います。

〔向井委員〕

大変失礼だと思ったのですが、とても寒く感じたので、上着を着させていただきました。11 頁に常設展示、特別展示の予定が書かれています。博物館として様々な展示をしていくことは大変なことだと思います。先ほどお話しに出ました出前講座についてですが、博物館に足を運んでいただくためには、出前講座にも同じぐらい力を入れていくことが重要だと思いますので、頑張ってくださいと期待しているところです。

また、入館者の目標設定について、55,000 人の話がありましたが、高い目標を設定して目指せるのであれば、それでいいと思いますし、コロナの影響を受けた現状から、一気に 55,000 人が難しいのであれば、段階的に増やして行く目標設定でもいいと思いますので、現状を踏まえた上で、設定していただければと思います。

そのほか、今日、私は九戸から来ました。滝沢経由で来たのですが、最後、この付近の上り坂に来るまで、博物館という看板を見つけることができませんでした。何を言いたいかというと、博物館に行ってみようと思った方々が、ここを曲がると博物

<p>〔総務課長〕</p> <p>〔議長〕</p> <p>〔菅野委員〕</p> <p>〔議長〕</p> <p>〔丸山委員〕</p> <p>〔石川委員〕</p>	<p>館ですよという目印、看板があるといいと思いました。</p> <p>寒い思いをさせて大変すみませんでした。それでも今日は、会議があるので特別に暖めていただくよう、委託業者にはお願いしていましたが、本当に申し訳ありませんでした。参考までにお話しさせていただくと、博物館の1か月間の電気料は、大体250万円平均です。今回請求が来ましたが、350万円と100万円上がっております。そういう状況だから、燃料代を節約しているというわけではないのですが、改めてお詫び申し上げます。</p> <p>また、博物館の案内についてですが、確かに、初めて来る方には分かりにくいというのはそのとおりだと思います。すぐ対応することは難しいかもしれませんが検討させていただければと思います。</p> <p>近くにいる方はいいと思うんですが、遠方から、様々な経路で来る方には分かりにくいというのが実感だと思いますので、御検討いただければと思います。</p> <p>盛岡市と一緒にやることはできないのでしょうか。市内の施設は分かりやすいところにあるのですが、ここだけではなく、一般的に文化施設に関する案内が少ないと思うので、盛岡市に相談してみるのがいいのではないかと思います。</p> <p>この件に関しては、久慈総括課長さんのところで少し動いていただければいいのかなと思います。</p> <p>私はいろいろな県の博物館を見て回るのですが、ぐるっと博物館みなたいなチケットがあって、それを利用すると割引になるような仕組みがあればいいかと、前から思っています。バスに乗って、松園からここまでもアクセスはあるので、観光客とか小学生がけっこう修学旅行で来ていますが、なかなかここまでは来れていない人が多いので、他の館と連携ができればいいなといつも思っています。この間富山県に行ったのですが、富山ではLRTという路面電車があるので、1日乗車券で、ここと、ここと回れます。ここと、ここを回ったら割引になるとか、スタンプラリーみたいなことが盛岡市と連携してできればいいと思います。</p> <p>盛岡市では、市の施設、先人記念館、遺跡の学び館や盛岡てがみ館などの共通入館券のチケットはありますが、県と市の共通チケットはないと思います。</p> <p>あとは、交通手段ですが、バスで市内からここまで直結で来るというのが難しいです。石割桜のガイドもコロナの影響でここ3年間ほど、案内に立っていないのですが、遠くからいらした方が、あその場所で、博物館に行くにはどうやってバスに乗ればいいのかと聞かれることがあります。盛岡駅からですとスムーズに行くと思うんですが、あその場所からはバスセンターからのバスしかないのですが、今は、スマホで検索すれば、移動手段は調べることができますが、皆ができるわけでもないのですが、交通の便が悪いと案内しにくいと感じています。</p>
---	--

<p>〔丸山委員〕</p>	<p>今日、私はバスでここまで来たのですが、どうやって行くのですかと尋ねたら、とりあえず、松園バスターミナルまで行くと運転手さんに言われました。そして、行けば乗り換えのバスが来るからと、アクセスが分かりにくいのですが、来てみればそんなに不便でもないと感じました。松園バスターミナルまでくればなんとかなると思いました。アクセスが分かりやすいと、いろいろな方も来やすいと思います。</p>
<p>(3) その他 〔議長〕</p>	<p>その他で何かありましたらお願いいたします。</p>
<p>〔石川委員〕</p>	<p>一利用者として、素直な感想ですが、日曜講座をすごく楽しみにしており、ほとんど聴講しています。12月にも2回参加し、館長さんの雑学のお話も楽しく聞かせていただきました。日本人で日本語を使っているのですが、全然分かっていないということが分かりました。土偶のお話もすごく面白かったです。オニグルミが顔だというお話を先生がしていました、私から見たらオニグルミはきれいに割れないので、ヒメグルミじゃないかと思ったりしました。</p> <p>あと、地下の収蔵資料を実際に見させていただいて、縄文土器も手に触らせていただいて、すごく感動しました。ガラス越しに見るのと、実際手に取るのとは違って、その感覚が、今も手に残っています。先ほどから予算がないお話がでていますが、何年前だったか、正確には分かりませんが、相撲の大鵬関が車イスで講堂にいらしたときがあります。その時は講堂に入りきれない、外にもあふれるほどすごい人数が集まりました。その頃は予算が潤沢にあったのかなと思います。</p> <p>苦情ではなく、意見なんです、ちょうど1年前に、「世界ふしぎ発見」でこの博物館が取り上げられました。その放送の2～3日後がちょうどこの協議会の開催日だったので、早めにきて館内を見たのですが、スタッフの方にそのテレビの話をして、知らないということでした。情報提供がないのですかと聞くと、ある時とない時があるとのことでした。その時はコロナで規制がかかっていたので、遠くから来る方はいなかったと思うのですが、せっかくすごい番組に県立博物館が放送されたということはすごいチャンスだと思います。来館者と接するスタッフの皆さんには、このような情報を職員に周知しておくことが必要だと思いました。</p> <p>それから、今、新収蔵・指定展というテーマ展を行っています。この展示解説会と日曜講座の時間がだぶって開催されていました。日曜講座は午後3時までですが、展示解説会が2時30分から始まるので、30分だぶっています。事情があるのかもしれません、利用する側からすると、時間あるいは日にちが重ならないようにしていただけたらと思います。</p> <p>また、岩石園や博物園があるのですが、以前はボランティアの方がいたと思います。春か秋、気候の良いときに植物園、岩石園、重要文化財の建物と合わせて解説会をしていただければと思います。</p>
<p>〔向井委員〕</p>	<p>資料についてですが、左上の隅を1点留めて両面印刷になっていますが、2点留めの方がめくる時など見やすいと思います。</p>

<p>〔細越委員〕</p>	<p>資料の 11 頁に来年度の事業計画の記載があり、このような企画展、テーマ展をするのかとワクワクしています。企画展は、地質関係の展示で調整中とのことですが、国立科学博物館にあるモシリユウの展示の予定はありますか。ここにある展示物はレプリカで、本物は国立科学博物館にあって、ここに本物を展示したことがないと思うので、本物をここで見るのができればいいなと思っています。先ほど運搬料の話もありましたが、その辺のハードルが高いのか、そもそも国立科学博物館から借りることができないのか、そのあたりをお聞きしたいと思います。</p>
<p>〔学芸第二課長〕</p>	<p>今回、地質部門が考えている展示の中では、モシリユウの展示の予定はないと聞いています。予算の都合ではないのですが、運搬には専用車両で、東京からとなるとそれなりの料金はかかると思われます。</p>
<p>〔細越委員〕</p>	<p>モシリユウはこの博物館の顔だと思っているのですが、本物をここで見たことがないので、国立科学博物館に行ってみたのですが、すごい狭いところに展示してあり、探すのがけっこう大変でした。岩手ではメインでも、国立科学博物館ではメインになっていないので、岩手の顔であるモシリユウを私はここで見たいと思っています。</p>
<p>〔学芸第二課長〕</p>	<p>予算の兼ね合いもありますが、担当の方には話しておきます。もし、実現できたら、大体的にPRし、皆さんにも御報告させていただきます。</p>
<p>〔細越委員〕</p>	<p>ここは総合博物館なので博物館の顔というものがいくつかあると思うのですが、縄文の土器とか土偶もそうだと思います。そのような顔があると集客の効果があると思います。</p> <p>資料の 13 頁の資料の保管・管理の中に館内燻蒸の記載があります。燻蒸期間中はここは閉館になるのですが、私は仏像とかに興味を持っていて、勉強していたことがあります。乾燥した日を選んで書籍などを日にさらし風を通す曝涼(ばくりょう)というのがあるのですが、1 週間でも 3 日間でも、普段目にするのができないものを展示することができれば、集客にもつながるのではないかと思います。これに関しては、予算もほとんどかからないのではと思い、提案させていただきました。</p>
<p>〔議長〕</p>	<p>そのほか何かありますか。なければ、議事を終了します。</p>
<p>〔館長挨拶〕</p>	<p>本日は長時間にわたり貴重な御意見をいただき、本当にありがとうございました。いろいろやりたいことがある時、なんとかただでできないかなと思うことがよくあります。その一つが、まだ、誰にも話をしていないのですが、国立科学博物館から、パンダの剥製を借りたいと思っています。岩手県内の方で、パンダを見たことがある人がどのくらいいるのか、上野動物園に行ってみたら何人いるのか、そう多くないと思います。ただで貸していただけるので、相手方には検討させてくれという話をしてあります。ただ、輸送経費は依頼者持ちで専用車両の経費が掛かるとなると、実現が難しいのですが、何とか皆さんにパンダを見せたいという思いがあります。</p> <p>それから 11 頁の来年度事業計画の中に企画展で調整中と書いてありますが、この</p>



内容をお話しすると怒られるので、今はお話しできませんが、皆さんには是非期待していただきたいと思います。

私がここに来て7年になります。3年間はコロナ影響で、入館者数は2万人台で、今年度も3万人行くかいかないかという状況です。残り4年間の入館者数は、過去20年間で、2位、3位、4位、5位となっていて、1位をとれていません。1位は「源義経展」があった時です。来年度の企画展で、この時を超える入館者数にしたいと考えております。これ以上のお話はできませんが、こうご期待ということでお願いいたします。

本年度もコロナに始まりコロナに終わった感がありますが、一年間、多くの方にご来館いただきました。一刻も早く多くの方が心から楽しむことができる岩手県立博物館に戻ってほしいと願っております。しかし、いずれにいたしましても来館していただいたお客様の健康、安全には、今後も十分に気を付けて参りたいと思います。

それから、総務課長からも話もありましたが、昨年4月に博物館法が改正されました。その新博物館法では、「有識者からの意見を聴くこと」が義務付けられております。当館では本日のように、開館以来、毎年委員の皆さまからのご意見を伺いながら博物館運営・経営に生かして参りましたが、今後、更にご意見を伺い、楽しい、魅力ある博物館を目指して参りたいと考えております。

委員の皆様におかれましては、大変お忙しくお過ごしのことと存じますが、当館の展示会や事業等の開催の折には、是非、ご来館いただきますようお願い申し上げます。

本日は長時間に渡ってご協議いただき、誠にありがとうございました。厚く御礼申し上げます。

お帰りの際には、自動車等の運転には十分にお気をつけください。

本日は大変ありがとうございました。

長時間にわたり、貴重な御意見をいただき感謝申し上げます。今後の博物館運営に生かして行きたいと思っております。

(テーマ展等を案内。)

## 7 閉会

[総務課長]